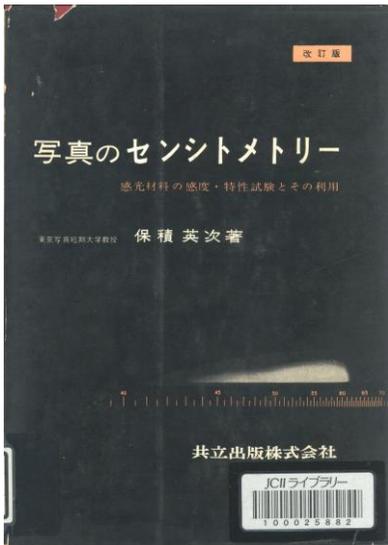


日本カメラ博物館 JCI ライブラリー
学芸員 宮崎真二

ほづみえいじ
保積英次 (1918-2004) は、1941年に東京写真専門学校(現:東京工芸大学)を卒業し、同校助手・助教授を経て短期大学部教授、同学部長を歴任しました。ほかにも桑沢デザイン専門学校や東京造形大学の講師、JMDC(日本機械デザインセンター)の写真機関係審査員、JCIの技術顧問などをつとめました。1984年には、日本工業標準調査会臨時委員として長年にわたりJISの制定などに携わった功績により、藍綬褒章を授与されています。



『写真のセンチメートル』(改訂版)

雑誌では創刊当初の『カメラ毎日』をはじめとして、各誌で読者の質問コーナーなどを担当しています。1970年代前半からは『写真工業』でストロボ、露出計などのテスト記事を執筆したほか、「新型カメラのテストレポート」に、検討グループの中心メンバーとして1975年4月号から1989年3月号まで携わりました。

1958年には『写真のセンチメートル 感光材料の感度・特性試験とその利用』(共立出版)を著しています。本書は「センチメートル」(感度測定)の説明にはじまり、感度以外の感色性、階調度、粒状、解像力、鮮鋭度など各種性能の測定、現像法、光源など広範に至る内容です。ASA感度の変更などを受け、1961年には改訂版が発行されました。さらに1964年には改訂新版となるなど、工業規格の改定やカラーフィルム、電気露出計の急速な発展にともない、早い頻度で改訂を行なわなければならなかった様子が読み取れます。1970年には本書の実用編ともいえる内容である『センチメートルの実際』(同)も発行されました。



『最新ストロボ技術』

1964年には『図説写真技術』(共立出版)を著しました。本書は「写真と視覚」にはじまり、写真の基本から撮影、処理、カラー写真まで図解を主体とした60項目を精選し、系統的に詳述しています。化学と物理を根基としてきた写真がエレクトロニクスの醸成を受けて自動化を進めた結果、内容を大幅に改めることが求められ、1983年には改訂版が発行されました。

このほかカラー写真に特化した書籍として、『カラー写真技術』(写真工業出版社・1974年・共著)、『図説色彩写真技術』(共立出版・1976年)の2冊、ストロボについて『現代カメラ新書14 最新ストロボ技術』(朝日ソノラマ・1976年)『現代カメラ新書89 ストロボの科学知識』(同・1983年)を著しています。また、カメラエレクトロニクスの発展を紹介するものとして『電子カメラ 光と電子頭脳の新しい世界』(工業調査会・1979年・編著)があります。